

平成24年11月8日(木)

**平成25年3月期 第2四半期
決算説明資料**

株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

KANEKA

• 業績概要	P.	3
• 主要指標	P.	4
• 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況	P.	5
• 連結貸借対照表	P.	12
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P.	13
• 海外売上高	P.	14
• 為替変動の影響	P.	15
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P.	16
• 業績予想	P.	17
• トピックス	P.	18

(平成25年3月期 第2四半期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2参照)

(単位：億円)

	24年3月期 第2四半期累計	25年3月期 第2四半期累計	増減額	25年3月期 第2四半期累計 予想
売上高	2,348	2,338	△ 11	2,400
営業利益	64	74	10	80
経常利益	58	68	10	75
四半期純利益	28	35	7	40
為替レート (円/US\$)	79.75円	79.40円		80円
為替レート (円/EUR)	113.74円	100.54円		105円
国産ナフサ (円/KL)	57,000円	55,000円		60,000円

◎ 売上高は前年同四半期連結累計期間（以下、前年同四半期）に対して△11億円・△0.5%の減収となりました。

◎ 利益は前年同四半期に対して営業利益は+10億円・15.0%、経常利益は+10億円・17.5%、四半期純利益は、+7億円・24.4%の、それぞれ増益となりました。

	24年3月期 第2四半期累計	25年3月期 第2四半期累計
・売上高営業利益率	2.7%	3.2%
・売上高経常利益率	2.5%	2.9%
・売上高四半期純利益率	1.2%	1.5%
・1株当たり四半期純利益	8.39円	10.49円
・ROE（年換算）	2.3%	2.9%
・ROA（年換算）	2.6%	2.9%

	24年3月期末	25年3月期 第2四半期末
・自己資本比率	53.0%	53.5%
・1株当たり純資産	734.61円	724.02円
・有利子負債	747億円	763億円
・D/Eレシオ	0.30	0.31

事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第2四半期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 11・12参照)

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高			営業利益		
	24年3月期 第2四半期累計	25年3月期 第2四半期累計	増減額	24年3月期 第2四半期累計	25年3月期 第2四半期累計	増減額
化成品	45,895	46,921	1,026	1,274	2,167	893
機能性樹脂	37,572	35,454	△ 2,118	3,802	3,151	△ 651
発泡樹脂製品	28,734	29,046	312	1,897	2,157	260
食品	64,495	63,263	△ 1,232	2,508	2,208	△ 299
ライフサイエンス	23,289	22,104	△ 1,185	3,869	3,948	79
エレクトロニクス	19,387	20,189	802	△1,720	△1,689	31
合成繊維、その他	15,474	16,780	1,306	656	2,565	1,909
調整額	—	—	—	△5,850	△7,103	△ 1,252
計	234,848	233,760	△ 1,087	6,438	7,407	968

※第1四半期連結会計期間より、研究開発体制の一部を見直し、従来「エレクトロニクス」事業に区分しておりました研究開発費の一部を基礎的研究開発費として全社費用に含めております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。

- ◎ 売上高は、化成品、発泡樹脂製品、エレクトロニクス、合成繊維、その他の4セグメントが増収となりましたが、機能性樹脂、食品、ライフサイエンス、の3セグメントは減収となりました。
- ◎ 営業利益は、化成品、発泡樹脂製品、ライフサイエンス、合成繊維、その他の4セグメントが増益となり、エレクトロニクスは損失が縮小しましたが、機能性樹脂、食品の2セグメントは減益となりました。

事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第2四半期 決算短信 【添付資料】P. 2参照)

◎当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

・化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内需要が低調に推移しました。塩ビ系特殊樹脂は、国内市場・海外市場ともに販売数量が増加しました。か性ソーダは、国内市況が堅調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は46,921百万円と前年同四半期と比べ1,026百万円(2.2%増)の増収となり、営業利益は2,167百万円と前年同四半期と比べ893百万円(70.1%増)の増益となりました。

・機能性樹脂事業

モディファイヤーは、製品差別化力の向上、コストダウンなどの収益体質強化に注力しましたが、国内及び海外市場の需要低迷の影響を強く受け、販売数量は低調に推移しました。変成シリコンポリマーは、国内向けの販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は35,454百万円と前年同四半期と比べ2,118百万円(5.6%減)の減収となり、営業利益は3,151百万円と前年同四半期と比べ651百万円(17.1%減)の減益となりました。

事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第2四半期 決算短信 【添付資料】P. 2・3参照)

・発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂、押出發泡ポリスチレンボードは、販売数量が前年同四半期を下回りました。ビーズ法発泡ポリオレフィンは、東日本大震災やタイの洪水災害によって停滞したサプライチェーンの回復などを背景に販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は29,046百万円と前年同四半期と比べ312百万円(1.1%増)の増収となり、営業利益は2,157百万円と前年同四半期と比べ260百万円(13.7%増)の増益となりました。

・食品事業

食品は、低価格品志向が一層強まるなかで、新製品の拡販やコストダウンに注力したものの、販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は63,263百万円と前年同四半期と比べ1,232百万円(1.9%減)の減収となり、営業利益は2,208百万円と前年同四半期と比べ299百万円(12.0%減)の減益となりました。

事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第2四半期 決算短信 【添付資料】P. 3参照)

・ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業が公定価格の引下げの影響を受けました。医薬バルク・中間体は、販売数量が低調に推移しましたが、機能性食品素材は販売数量が前年同四半期を上回りました。

以上の結果、当セグメントの売上高は22,104百万円と前年同四半期と比べ1,185百万円(5.1%減)の減収となりましたが、営業利益は3,948百万円と前年同四半期と比べ79百万円(2.0%増)の増益となりました。

・エレクトロニクス事業

超耐熱性ポリイミドフィルム、光学材料は、エレクトロニクス製品市場の需要の拡大と新規案件の採用などにより販売数量が前年同四半期を上回りました。太陽電池は、国内市場向けの拡販と徹底したコストダウンに注力しました。太陽電池関連部材は販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は20,189百万円と前年同四半期と比べ802百万円(4.1%増)の増収となり、営業損失は1,689百万円と前年同四半期に比べ損失が縮小しました。

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第2四半期 決算短信 【添付資料】P. 3参照)

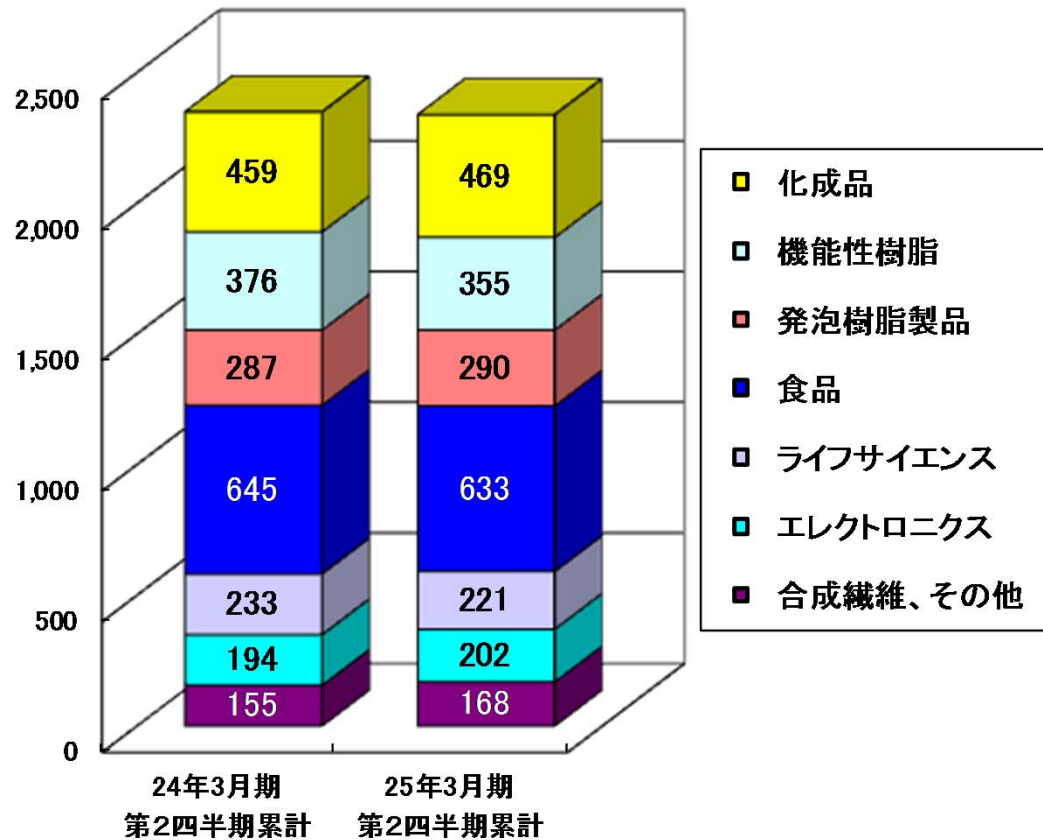
- ・ **合成繊維、その他事業**

合成繊維は、高付加価値品の拡販、販売価格の修正やコストダウンなどの収益改善策に注力しました。

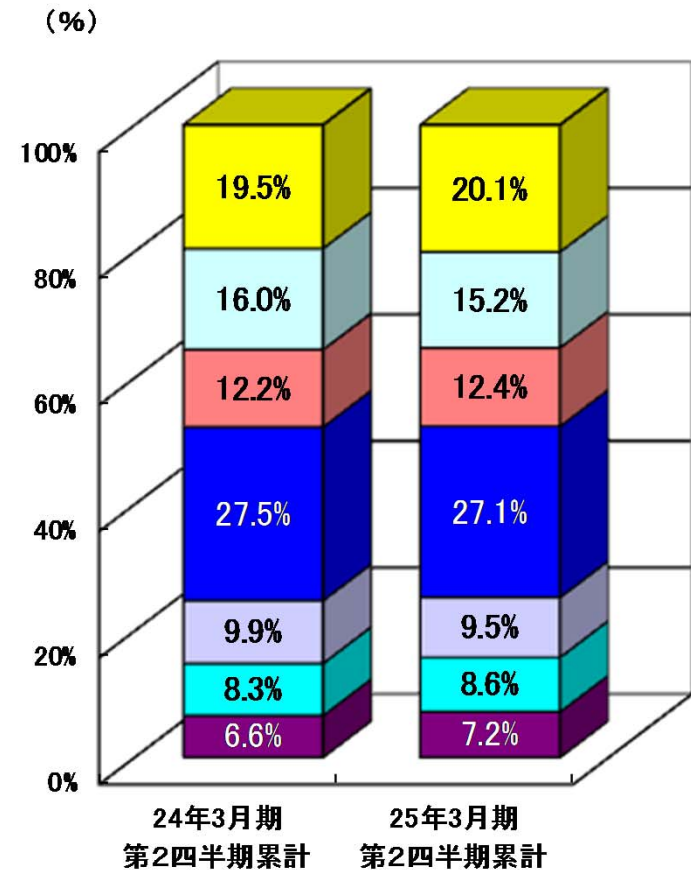
以上の結果、当セグメントの売上高は16,780百万円と前年同四半期と比べ1,306百万円(8.4%増)の増収となり、営業利益は2,565百万円と前年同四半期と比べ1,909百万円(290.8%増)の増益となりました。

事業セグメント別売上高

(億円) セグメント別売上高

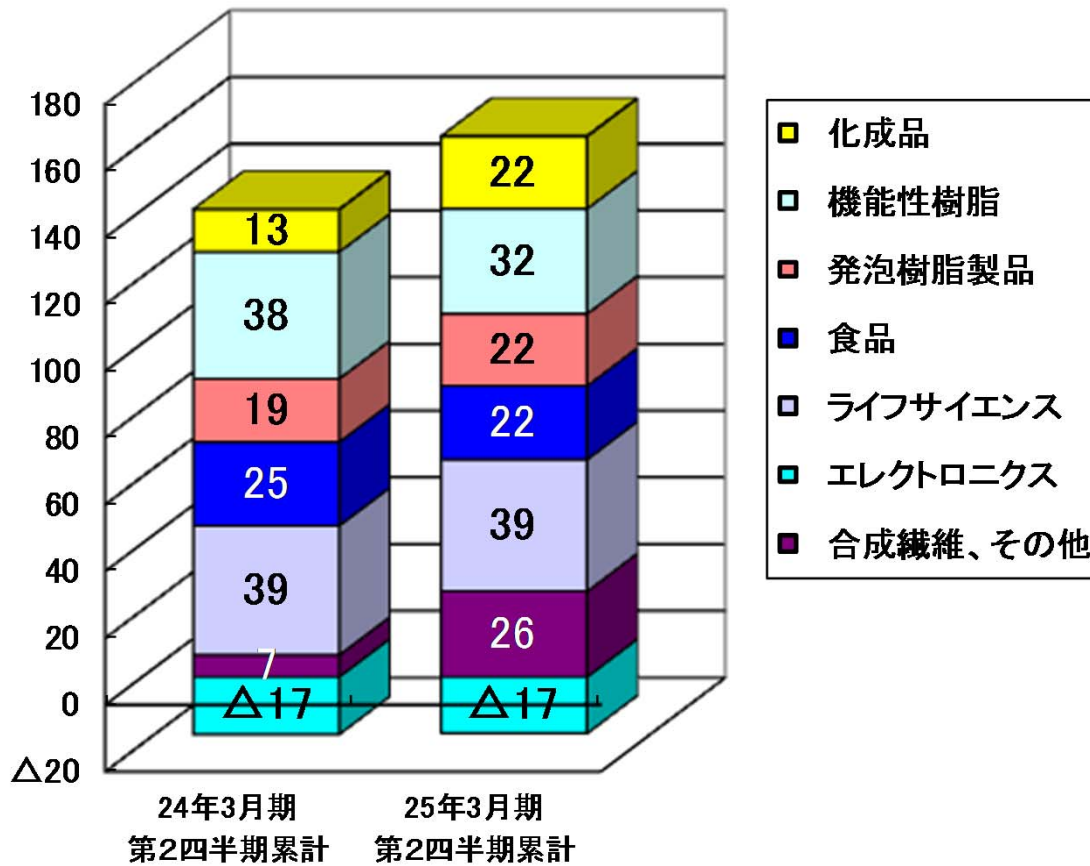


セグメント別売上高: 構成比

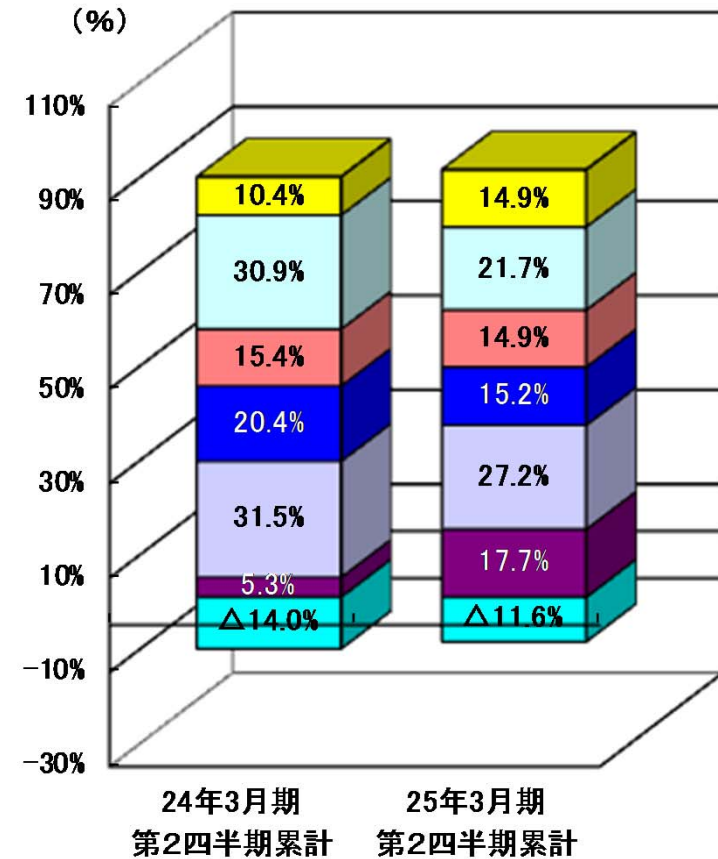


事業セグメント別 営業利益

(億円) セグメント別営業利益



セグメント別営業利益: 構成比



(平成25年3月期 第2四半期 決算短信【添付資料】P. 5・6参照)

(単位：億円)

		24年3月期末	25年3月期 第2四半期末	増減額
資産	流動資産	2,360	2,275	△ 85
	固定資産 等	2,311	2,286	△ 24
	合計	4,671	4,561	△ 110
負債	有利子負債	747	763	16
	その他	1,349	1,261	△ 89
	合計	2,096	2,024	△ 72
純資産	自己資本	2,475	2,440	△ 36
	少数株主持分 他	99	97	△ 2
	合計	2,575	2,537	△ 38
負債、純資産 合計		4,671	4,561	△ 110
D/Eレシオ		0.30	0.31	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べて110億円減の4,561億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、16億円増加し763億円となりました。
- ◎ 純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により38億円減の2,537億円となりました。

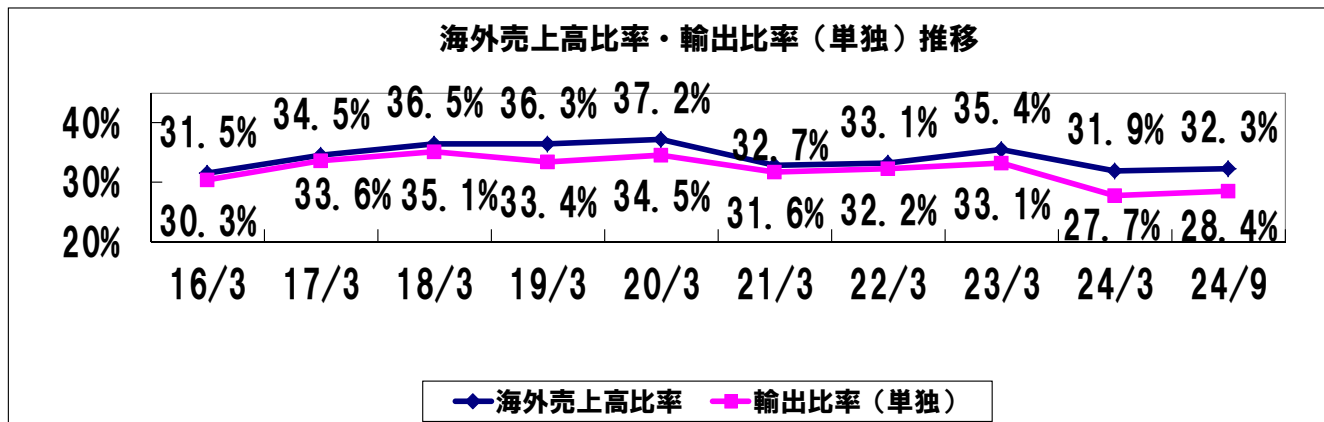
連結キャッシュ・フロー計算書

(平成25年3月期 第2四半期 決算短信【添付資料】P. 9・10参照)

(単位：億円)

	24年3月期 第2四半期累計	25年3月期 第2四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	28	139	110
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 144	△ 170	△ 26
フリー・キャッシュ・フロー	△ 116	△ 32	84
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 45	△ 6	39
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	△ 156	△ 40	116
現金及び現金同等物の四半期末残高	214	233	20

- ◎ 当第2四半期連結累計期間の営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により139億円となりました。
- ◎ 投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により170億円、財務活動による資金の支出は、配当金の支払額等により6億円となりました。
- ◎ この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、233億円となりました。



（単位：億円）

	24年3月期 第2四半期累計	25年3月期 第2四半期累計	増減額	増減率
アジア	327	334	6	+1.9%
北米	147	147	0	+0.0%
欧州	221	196	△ 25	△11.3%
その他	84	79	△ 5	△6.0%
海外売上高計 (海外売上高比率)	779 (33.2%)	756 (32.3%)	△ 24	△3.0%

◎ 海外売上高は円高の影響を大きく受けて756億円と前年同四半期に比べて減少しました。なお、海外売上高比率は32.3%となり前年同四半期の33.2%を下回りました。

【期中平均レート】

(単位:円)

	24年3月期 第2四半期累計	25年3月期 第2四半期累計
米ドル	79.75	79.40
ユーロ	113.74	100.54

【通貨別影響額】

(単位:億円)

	売上高	営業利益
米ドル	△2	△0
ユーロ	△26	△5
その他	△3	△0
合計	△31	△6

- ◎ 為替は対ドル、対ユーロともに円高となり、前年同四半期に対して売上高で△31億円、営業利益で△6億円の影響を受けました。

設備投資・減価償却費 / 研究開発費

(単位：億円)

	24年3月期 第2四半期累計	25年3月期 第2四半期累計
設備投資	166	146
減価償却費	140	133
研究開発費	99	106

(平成25年3月期 第2四半期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 4参照)

- ◎ 当第2四半期連結累計期間の世界経済は、欧州経済低迷の長期化、中国・インドなどアジア諸国の成長ペース鈍化など、全体として減速の動きが広がっております。わが国経済は、震災復興需要などを背景として緩やかな回復基調にありましたが、円高、原燃料価格の上昇、日中関係の悪化など不安定要素を多く抱え、先行きに対する不透明感が強い情勢となっております。
- ◎ このような厳しい経済環境の中、当社グループは、重点戦略分野への事業展開を進め、新規事業の創出、グローバル展開やアライアンスの強化等により、事業構造の变革を推進してまいります。また、既存事業での販売数量増大のための施策や、生産から販売まで含めたトータルコスト低減に向けた技術開発や業務革新をグループ一体となって進め、収益力強化に徹底して取り組んでまいります。
- ◎ なお、通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

前回発表予想

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	5,000	200	185	100

【25年3月期：前提条件】

為替：80円/US\$、105円/EUR、国産ナフサ：60,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- 中国、日本及び米国企業を相手方とする酸化型コエンザイムQ10に関する
米国国際貿易委員会への申立に対する仮決定について — 10月11日
- 韓国及び米国企業を相手方として米国国際貿易委員会に申し立てた
ポリイミドフィルム製品に関する調査の最終決定について — 10月10日
- 衝撃吸収パッド付きインナーウェア「カネカヒッププロテクター」の発売
— 転倒時の衝撃低減と優れた着用感を両立 — 10月3日
- 太陽電池同質支持瓦採用工法の販売開始 — 9月27日
- カネカグループの発泡スチロール成形品製造会社を再編
— カネライトフォーム製造子会社も社名変更 — 9月21日
- 抗体医薬品精製用プロテインAクロマトグラフィー担体を発売開始
— 抗体医薬品分野への本格参入 — 9月20日
- 更なる物流合理化を目指しカネカ 食品東日本物流センターを竣工 — 9月10日
- 「スマートシティプロジェクト」にリーディング企業2社が新たに参加 — 9月7日
- 甘草グラブラポリフェノールによる「脂質代謝」向上作用について — 9月5日
- カネカ太陽電池 防眩モジュール 新発売のお知らせ — 9月4日
- ミラノにおけるプレスイベントの開催について — 8月28日

kaneka